

FOCUS

追いかける。大学生。

NPO 法人 Blue Earth Project

楽しみながら社会貢献

女子大生が社会貢献を行う NPO 団体 Blue Earth Project。環境保全や被災地復興などその活動は多岐にわたる。「あしたも青い地球で逢いたい」をコンセプトに掲げ、関西大、関西学院大、神戸松蔭女子学院大、甲南大の女子大生 14 人で活動をしている。



「テーマが固いからこそ、気軽に考えたい」。そう話すのはメンバーの中村亜津美さん(神戸松蔭女子学院大・3年)だ。なぜ彼女たちは社会貢献活動を行っているのだろうか。それは高校時代まで遡る。この団体のメンバーは全員が松蔭高等学校の出身だ。実は Blue Earth Project とは松蔭高校の授業のカリキュラムの一環で、彼女たちは高校生のころから活動を行っていた。ウォームピスを広めるため、商店街や商業施設を周り、暖房設定 20 度呼びかけたり、食育活動として米を食べることを推進したりするなど様々な活動に携わっていた。しかし、高校を卒業するにあたり、必然的にこの活動から離れてしまっことになったメンバー。「このままで終わらせたくない」。そう思っ

た彼女たちは、Blue Earth Project 大学部を設立。これが元となり今のような NPO 法人として活動するに至った。
12月5日に西梅田で開催された100万人のキャンドルナイト。関西でも有数のキャンドルイベントに彼女たちの姿はあった。今回は大手通販会社フレイシモとのコラボレーションで太陽光を電力源にした環境に優しいキャンドルを展示。6大陸をイメージした500個ものキャンドルを並べた。衛星写真で地球をみると、日本や欧米諸国は明るく、アフリカなどの発展途上国は非常に暗い。これをモチーフにし、電気を多く使用している国はキャンドルを高く積み上げ、そうでない国はキャンドルを少なく配置するなど独自の趣向を凝らした。「日本はとても電気を使っているの、これを見てみなさんに節電しようって思ってもらえるといいですね」と福井沙枝さん(関学・4年)は語った。
Blue Earth Project は、これまでにも多くの活動を行ってきた。毎月エコカフェと称して、三宮などでトークイベントを実施。水の専門家や農家の方をゲストスピーカーとして招き、お客さんも交えて

地球を守る 14 人の戦士

ディスプレイをしてい。また神戸市西区で無農薬農家の畑の一部を借りて農園 Blue Earth Farm を作り、50種類以上の有機野菜を栽培している。そこでとれた野菜をジュースにして市内のイベントで販売するなど、地産地消・無農薬も勧めている。慣れない農作業も楽しくするのが Blue Earth Project 流。芋掘りも、どのチームが一番掘れるかをゲーム形式で行うなど、まず楽しむことを一番としている。楽しんで取り組む



むことこそが活動を続ける秘訣なのだろう。
これからは誰もがもっと気軽に参加できるイベントを作りたいと考えている Blue Earth Project。中村さんは「誰でもすぐ考えられ、身近なアクションで社会が変わることを伝えていきたい」と語る。「女子大生らしく、華やかに」。そう話す彼女たちはお揃いの真っ赤なつなぎを身にまとい、これからも明るく楽しんで可愛く活動していく。(聞き手 日和佐直矢)

UNN 関西学生報道連盟

FOCUS は

神戸大学ニューズネット委員会
同志社大学 PRESS 編集部
NEWS 立命通信社
関学新月通信社
大阪大学 POST 編集部

関西大学タイムス編集部
神戸女学院大学 K.C.Press 編集部
京都女子大学藤花通信編集部
京都大学 EXPRESS 編集部

の共同編集による週刊フリーペーパーです

配信・発行 (C) UNN 関西学生報道連盟 (公式 HP) <http://www.unn-news.com/>

共同編集室 〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-24 ダイニホンビル 4F

(TEL) 06-6307-1315 (FAX) 06-6829-6353 (MAIL) info@unn-news.com